京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久静一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
仁川宮町三丁目 仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地 東京支局

●通明殿の名畫を見る(上)

野崎小蟹

秋晴れの九月二十三日友の一人と、京城は明政門内の動物園に入りて、猛獸を見たり優しい丹頂の鶴やを見たりした、其中に九歡鳥とか云ふ鵡より稍小柄なのが、人語を解するものゝやうに早う〳〵と嗁いて、其次に馬鹿〳〵と嗁いて居た、此鳥は是切り人語を解さないらしい、けれども聞れやらにほんくらと云はれて此方、どうも動物が皆私に逆ふやうに思ひなされて仕方がない所へ持つて來よつて、今此動物園に於て、個んな籠の鳥すなはち檻はれた鳥に馬鹿と云はれて居るのも何んだか他人に輕蔑せられて居るやうに聞きなして居ると、其隣の籠の中でオルガンの音を眞似るかと思はれる、極めて短調な節を出して、それから黄色な鶯で鶯啼聲を眞似たのがある、萩の花の美しう咲き滿ちて、麗らかな祖國の異登の自然の野原を、私は今此所に秋たけなはな朝鮮の地に想ひ起さずには居られなかつた。

個んなツマラス事を胸にしながら動物園から博物館の方へと歩を移したのである。

博物館の事は記憶に存するまゝを書いて見ると、ざつと拾有餘棟の建物の中に珍重な品が數多く陳列されてある然し古器物らしいのは僅かに見る價値はあつたらふが、私は友が待ち遠しく道入り口の建物の中の椅子に腰を掛けて居るのであるから、只通明殿の名畫だけを好く調べて歸らうと、神代杉の駒下駄を脱いで、供へてある竹の皮草履に穿きかへて、殿内へと這入つた。

名畫はうう數多くは保存されて居なかつたが、見て行く内に並々ならぬ手腕の十種ばかりが目に殘つた、私は今ぼんくらの眼に又はぼんくらの頭に感じた儘を、此紙上を借りて記して置きたく思ふのである。

此殿内に來て思ひ出したのは、李王が保存せられて置かれた品を寫眞帖とした、二冊の物を兼ねて見た事があつた、其樣なものに記してある通りに名畫と云ふものは誰れにも解せられて書ばれるものとは決して定まらないと私は考へた、彼樣な書冊に殘念ながら取殘された畫いも必定、其れ以上な名畫もあるであらうと、私は注意しては調べて見た、然し書冊にあるのでも好きものは決して惡しきものとは私は見なさい心算である。

樂痴生の一元風雨夜漁人得利歸の圖が私には一番氣に入つた、蓮潭の明畫は二聖瀧に語るのである誠によく畫かれた古畫である名人の筆が解せられる難を云ふと顔を向けた方が超然として居ない。

肅宗朝の佛佗七人は上席に位してあるだけの筆でない、眼は殊に上手に畫かれて居ない、更に鼻と口との間に二本宛の線が皺と云ふよりも朝鮮人のまばら髯のやうにも見ゆる、古るいものには違ひはなかつた。

雜錄

●各道棉花栽培發展豫想

▲忠清北道(忠州金融組合調査) 在來棉と陸地棉とを問はず本道に於ては棉花は薄利にして現今にては在來棉の栽培も單に朝鮮人自家用として僅少宛栽培するに止まれば將來の發展を期せんには本道の氣候に適する良種を發見せざる可らず、然れども在來種及現時全南地方に栽培する陸地棉は未だ本道の氣候に適せざれば未だ發展の見込なし

▲京畿道(勸業模範場調査) 南朝鮮地方に於ては陸地棉の栽培增大すべきも當地以北に在ては氣候の關係上適地に限りありて著しき發展の餘地なからん但し在來棉なりせば其栽培法を改良せんには尚ほ發展の餘地あるべし

▲平安南道(勸業模範場平壤支場調査) 陸地棉は在來棉に比し優良なるは之を認むるも本道に在ては氣候の關係上發展の見込なし在來棉と雖も現時より發展するは頗る困難なるべし

▲平安北道(道廳調査) 本道は氣候の關係上陸地棉の栽培地にあらず在來棉と雖も現狀を維持するに止まらん將來發展すべき見込は多分絶無なり

▲黄海道(道廳調査) 近來各種穀類の價格騰貴に伴ひ其產力漸く向上し來りしと之は耕作の棉花の栽培より氣候を顧慮する事少き爲め棉花栽培は漸次其反別を減少する傾向あり加之ならず近頃外國棉の輸入夥多にして之が爲め壓價を壓倒さる現狀なりとす(完)

●京城昨今の金融

昨今京城の金融界は盆當時と比較して著しき變動なきも唯仕入季に際せるを以て幾分忙はしく殊に新穀出廻りの關係上各銀行に於ける預金の引出し弗々と增加せるが何れ十月中旬頃にいたらば甚しき繁忙を見るにいたるべしといふされど本年は鮮人側にあつては恩賜公債引替の結果幾分緩和ならんといふ

●球根草花最珍種の無代配布 岡山縣邑久郡長船農事試驗場にては送費荷造費として切手十錢を送れば秋植球根草花の女王チユリツプ、アネモネ、オキザリス、ヒヤシンス等最珍種取合せ十餘種を何人にも無代分配する由同場より通知ありたり

文苑

●其日〳〵

杉の舍主人

碁
のどかにも濱の眞砂の見ゆるかな
鷲も烏もうちみだれつゝ

圖書館
ふみと云ふふみを大かた集めたきて
よく見る人をまたぬ日はなし

飛行船
鳥にやはしかさるへきど久方の
うら行く船をつくりいてけん

外事一束

△獨佛の協商圓滿に運び只二條項の削除を見るも既に調停案成り解決月内

△西國軍隊一部を兵營内に監禁し首相は革命黨に對し斷乎の處置に出づと

△獨逸に獨國銀行佛の壓迫に堪へず金利を上ぐ英蘭及塊銀も爲に一歩を上ぐ

△白耳義の軍事的準備專ら獨境に嚴なりとの風說に對し國境一帶同一と辯し

△吉林大火後市場萎微加之村落擾れし塞又迫る救援減じ商估倒產饑民多し

△佛の對獨報償にして認容さるべくんば類似關係上露の小亞細の利權も亦

△當然承諾を得さる可からずとの通告露西亞より來る歐州外交又多忙なり

俳句

◎朝寒拾句

多田千春

朝寒や流れ木拾ふ渡し守
朝寒の顔合せけりつなぎ猿
朝寒や細くつくりし眉の跡
朝寒の戸にもたせけり竹箒
朝寒や木の葉ばかりの手水鉢
朝寒や動かして見る桶の魚
朝寒や船へ呼ばるゝ豆腐賣
朝寒を咄して行くや薪賣
朝寒や小さく見ゆる猫の顔
朝寒や素足のまゝの榊賣

◎新刊紹介

◉實業の日本 依例警拔にして奇警なる文字多し大隈伯の『世界縱横談』は一讀伯の人物を彷彿せしめ新渡戸博士の「强き精神を持つ工夫は」讀み來つて惰夫をして起たしむ蓋し同誌獨特なり(一部十一錢東京々橋區南紺屋町實業の日本社)

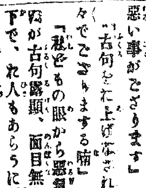
◉貿易 「貿易瑣談」「獨立成功の眞意義」「貿易發展の一策として當協會に望む」其の他の記事何れも有益して趣味多し(一部十錢東京々橋區宗十郎町日本貿易協會)

◉國の華 風景寫眞版數葉何れも見るべし繪畫に關する風景ての記事は門外漢と雖も一讀すべき必要あり(一部十錢京都市下京區大黑町石田文庫)

◉日本神典かな古事記 難解なる古事記を平易に讀ましめ解せしめんが爲めに發行せる冊子なり宜しく一本を座右に供すべきなり(一冊十五錢東京府下淀橋町柏木興辰商會)

◉東京金物新報十週年號 十週年號として發行せる丈に頁數多し頁數多き割合に記事は至つて少なし今後工風を要す(一部五錢東京淺草區西鳥越町東京金物新報)

◉書畫骨董雜誌 「日本畫家の前途に就て」「日本畫と西洋畫」「南畫と南宗畫家」何れも讀むべし(一部十錢東京本郷區湯島書畫骨董雜誌社)



御召使れ初

第百五十二回

黑法師

「れ詰所でもこの噂、れ不憫さうなはれ道さまと、泣かぬものでござりませぬ」

「自体れ道さま、何うなされたのでござります」と一人の女は問ひ返す。

「扉はれ歌でござります、澤野樣御披露なされたれ道樣の御詠歌が、何かの集に出てあるとか申すが起因、相生樣口穢ら惡口雜言なされたのでござります」

「否やの〳〵、中年寄までれ勤めなされながら、晴の御場所に古句さし上げ例し御褒美を受けた所、それが何のれ手柄でござります」と一人は悧れ顔にぬ「日頃の御氣質、其樣にも聞きませぬれ道樣魔がさしたのでござりまするな」

「私も爾うは思ひまするが、表から見えぬは人心、彼まで御出世なされたを僅の事で取り返し付くまじきれ身の上木から落ちた猿同樣でござります」とれ久は一段聲をひそめ「うれにまだれ惡い事がござります」

「古句をれ上げなされた外、とりや散々でござりまする噺」

「私どもの眼から惡氣とも見えませぬが古句露顯、面目無う御退りのれ廊下で、れ人もあらうに澤野樣のれ草履をれ履き違ひなされたのでござります、それを又運惡う相生樣見させられて、草履盜人の惡人の日頃から手癖が惡いのと、散々に惡口、餘所の見る目も堪へられぬ程でござりました」と云ひかけて目を拭ふ、心なきれ犬小供にも物の僻れを知る心はあるなりき。

「うれほどにれ云ひなされすとも、好い事を相生樣とは日頃から可からぬ間、くやうでござります、れ道樣御出世、今までに例も無う早いと思へば、すぐに外々れ嫉みをれ受けなさる眞に〳〵れ宮仕ははど難しいものはござりませぬ、身の過失とは云ひながら、盜人の汚名を受けさせ、れ道樣どうなさるでござりませう、日頃から御贔負厚い國尾樣はあらせまするも、奧方はござらせるも、後を嘗尾好うれ勤めでござりませうかな」

「れ道樣にも意地がござります、海老屋幾兵衛町人の手かられ上りなされても、親御樣は本多樣御家老までれ勤めなされたれ方と云ふ、のめ〳〵在らせの筈は無い、晩いか早いか、れ暇を願はせるでござりませう」とれ久は濕み聲にて云ひ「れ道樣れ暇を願はせらるは仔細ないも、國尾樣さう御本意ないでござりませう噺」

「私もそれを思ひます、國尾樣御逼塞あらせたりや、澤野樣此上にも羽を伸して、御當家れ奧を一番に遊ばすでござりませう噺」

「何を云ふも末の世、人よりは我身、れ道樣を鑑みて、急出世は致さいで置きませうの」

「うれが好うござります、此の立話聞かれても、互の身の上、好い事はござりませぬで、内密々々、御他言を遊ばしますな」

「れ互の事、壁にも耳がござります、皆さまれ氣をれ付けなされませ」

れ犬小供は頷き合ひて狐鼠々々と左右に別れぬ、涙に濕る袖垣の陰に佇みて、始終を立ち聞きしたる人は、餘りの事に惘れ果てゝ、た切手門を外へ出る勇氣も無かりき、今日れ退りの御樣子、た部屋へ入らせて後のれ顔色、常ならず思ひしが果して斯る珍事はありき、草履盜人など忌はしい、穢名を受け、生き永へたまふれ方ではよもあらじ、さすればこれの御消息……」と思はず思ひ到りし時、彼女は大砲の彈丸に胸を射らし如く、愕然として目を睜りき。



東京電報

●大元帥陛下御發輦期 本年九州に於て行はせらるる陸軍特別大演習統監の爲め大元帥陛下御臨幸の御日割に付き更に詳細聞く處に依れば十一月七日東京御發輦同日名古屋御一泊翌八日姫路御一泊九日三田尻御一泊十日久留米御着十一日より毎日演習地へ御臨幸演習御統帥あらせられ十七日還幸の途に就かせられ三田尻、姫路、名古屋へ各御一泊の上二十日御還京の事に御治定相成たり三田尻行在所は山口縣防府町なる毛利公爵邸にして毛利公は同地に兩三[illegible]たき旨奏請したるに[illegible]あらせらるる可き新[illegible]し且つ帝國議會も切[illegible]は九日十七日の往返[illegible]き旨御諚ありしやに承はる陛下の祭事に厚く且つ國務を忽に爲し給はざる大御心の程いともかしこし

●政治思想の進歩 内務當局者の談に依れば今回府縣會議員の撰擧に際して殊に郡部に於て概して何れも議論を重んずるの風あり盛んに演説會を催し互に雌雄を決す[illegible]弊少なきものゝ如く[illegible]あるものとして報告せられたるものゝ内栃木大阪廣島埼玉靜岡群馬石川愛知各府縣に於ても政友會派が御馳走政略位にして極めて[illegible]ものに過ぎず之に關する地方長官の監督處分も多く公平を得たるものあり云々

●大久保大將の光榮 天皇陛下には前朝鮮駐劄軍司令官大久保大將に對し左の如く御下賜品ありたり
御紋章付銀製花瓶 一對
目錄 一封

●瓦斯合併の出願 東京千代田兩瓦斯會社合併の出願は本日當局に進達したり

●日銀金利引上躊躇 日本銀行が近く公定割引歩合を引上ぐるならんとの説は昨今專らなるが（昨紙參照）内外經濟狀態に依る金融の趨勢及本日（廿五日）發行の借替大藏證券の日歩は日本銀行の割引日歩同樣一錢三厘に引上げ何等差異なきに至りたるに見るも利上は當然あり得べき事なるべきも現政府が東京市の電車公債八百萬磅を外債に依り内地金融の緊縮を調和し且つ在外正貨の缺乏を補塡する計畫實行中にある折柄此際日銀が歐米各國の金融の變調に從ひ金利を引上げ財界に危惧の念を抱かしむるは折角人心の一新を期せんとする新内閣に對しても不[illegible]の感なき能はざるに依り當局暫く金融の前途を觀望して時期を見て利上を決行せんとするものゝ如し

▲府縣會議員選擧 府縣會議員撰擧の結果大体に政友派多數を占めたり

▲矢矧の進水式 新艦矢矧の進水式は十月三日長崎に於て擧行の筈なるが竹田宮殿下御臨場の豫定なり

▲神奈川縣知事更迭説 神奈川縣知事周布男爵は樞密顧問官となり前臺灣民政局長官大島久滿次氏後任たるべしとの説專らなり

▲佐久間總督入京 佐久間臺灣總督廿五日午後入京せり

雜報

●鮮米輸入税撤廢飛撤 朝鮮米輸入税の撤廢を唱道しつゝある大阪朝鮮貿易組合は關係當局其他へ意見具申の外今回更らに一般商業者へ飛撤し注意を喚起せり其要左の如し

最近の統計に依れば既往五ヶ年間内地米の平均產額は四千九百餘萬石にして需用不足の四百餘萬石は外米の輸入を仰ぐの必要上從來朝鮮米の當地輸入に對しては朝鮮に在て從價五步の輸出税の外別に内地に在て每百斤に付一圓（一石に付二圓半）の移入税を二重に課せらるゝに反し臺灣輸入米は無税なるが爲め同一領土にありながら朝鮮米は却て他の外國米よりも重税を受くるに至り現に一石に付三圓以上の課税を見るは不公平の嫌あり去れば一般外國米の輸入税を全廢する能はずとするも切めては一ヶ年間に僅々五十萬石内外の輸入に過ぎざる朝鮮米の輸出入税を併せて撤廢せらるれば時局經濟上の効果少々ならざるべし然るに若し朝鮮米の輸入全廢の曉には外國米が一旦仁川に陸上げして容器等に變更を加へ朝鮮米を裝ふて内地へ輸入の虞れあらんとの説あれども此れ等は實際課税を企つる丈の失費を償ふを得ざる不利を見るべければ全然考慮に値せず即ち左の損失を生ずる計算となるべし

七十三錢朝鮮米輸入税▲十八錢從入夫賃▲八錢倉敷保險料▲三十六錢叺繩代▲十六錢叺入替賃▲六錢二厘船待期間利子▲十八錢本船迄積込賃▲十七十五錢輸出税▲五十錢艀船賃▲十錢五厘爲替保險料▲合計三圓六十二錢▲内十五錢一厘空麻袋賣却代▲差引二圓九十一錢一厘失費

●雜税整理方針 雜税整理方法に關し今回政務總監より各道長官、府尹、郡守等に通牒されたる方針によれば從來の伏税、水税、竹田税、蘆田税、火畊税（土地が國有なる場合に限る）柴山税、草坪税等は悉く今後驛屯賭收入として漁基税、漁磯税、基址税、漁業税（舊經理院處管の分）舊岩税、漁區税、毛蘆税等は漁業税として收入印紙を以て收入すべく其他一般雜税の既往年度未納繰越額等處分未濟のものは速に完結すべしとの事なり

●各種契の調査 農商工部にては朝鮮在來の慣習になれる各種の契に關し產業上資益する處あるべき者に對しては之れに相當の保護を加へて成立を助くべき方針にて各道長官に訓諭し調査中なるか各道廳にては目下夫々各郡に移牒し調査報告を徴し居れりと云ふ

●朝鮮歩騎兵採用 豫て朝鮮歩兵及騎兵隊に於て募集中なりし歩騎兵の採用は二十五日午前九時より朝鮮歩兵隊に於て學術試驗委員正尉白昌基、副尉李官豐、同体格檢査委員矢野二等軍醫及金軍醫立會志願總員二百八十九名に就き最初學術試驗として日本語漢文等に付て行ひたるに何れも前期に比し成績優良にして殊に日語の如きに至ては尤も研究したるものらしく一人として普通の挨拶位解せざるものなかりしを以て多數は學術試驗に合格したるも午後より体格檢査を行ひたるに其身長四尺七寸より六尺三寸まであり しも前期と大差なく平均五尺三寸位にして眼其の他の病者割合に多かりしを以て結局右二百八十九名中歩兵に百一名騎兵に十四名合格し同日午後四時半檢査全く終了し合格者は直ちに入營せしめ二十六日は各隊長より一場の訓示あり二十七日より新兵として一般の教習を授くへしとの事なり

●朝鮮兵第二期募集期 朝鮮歩騎兵の募集は時宜により募集する筈なるを以て必要に應し募集すへきも第二期募集は來年一月頃今回同樣百五十余名を募集すべしと云ふ

●湖南京元線敷設狀況 最近に於ける湖南京元兩線の修築狀況を聞くに左の如し

湖南線（太田方面）

▲太田連山間（二十四哩六分） 專ら水害箇所の復舊に服め既報八月十八日にキ列車運轉上支障なき程度に補修を了りたれば同十九日より營業列車の運轉を開始せるも尚は引續き線路の補修工事中なり

▲連山江景間（十三哩二分） 水害の箇所を補修工事中

▲江景裡里間（十七哩） 土工工事六分通り橋梁工事三分通り全區間を通じて約五分通り竣工せり

▲群山支線 十四哩八分土工工事三分通りになたが尚木浦方面を掲ぐれば

▲羅州四街里間（三十三哩） の内九哩の實側を了し之れにて湖南線全部の測量を了せり

▲木浦鴨橋間の内八哩七十八鎖迄測量を了せり

京元線（龍山方面）

▲龍山議政府間（十九哩八分） 本區間土工橋梁等線路建築工事は全部竣功せり

▲議政府碑林里間（十七哩） 土工工事八分通り橋梁工事五分通り全區間を通じて六分五厘通竣工せり

▲碑林里漣川間（九哩四分） 土工工事約八分通り橋梁工事約七分通全區間を通じて七分五厘通り竣工せり

▲漣川鐵橋間（十四哩九分） 土工工事五分通り橋梁工事一分通り全區間を通じて三分五厘通り竣工せり

▲龍山起點 二十哩迄の敷設工事を了して此の間建築列車の運轉を爲す尚元山方面を掲ぐれば

▲南山元山里間 十四哩四鎖迄丈量を了せり

●定例長官會議 二十六日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監以下出席政務の打合せを爲し正午散會

●來年度の豫算附議 來年度總督府豫算は愈々全部の査定濟み各部提出の希望等も交渉終了したるを以て二十六日の長官會議に附したるが荒井度支部長官は來る三十日頃出發豫算案を携さへ東上さるゝ由

●道參事會開催 廿六日より京畿道廳に於て道參事會を開催し檜垣長官其他各部長等出席し道政に關し諮問する處ありたり

●講習證書授與式 講習中なりし各府郡書記の卒業證書授與式は二十五日午前九時より元度支部廳舍なる講習會場に於て擧行され宇佐美長官小原局長擇田、松本兩課長及各講師列席の上中島講習主任より講習中の成績報告し宇佐美長官は親しく卒業證書を授けられたる上任地に赴く覺悟並びに執務上の心得に就て一場の訓示を與へられ萩原郡書記の答辭あり午前十時式を終りたり

●市原鮮銀總裁談 私は約四十日許り前に總會の用事で東京に居て來たが變った事と云へば内閣の更迭だね、實業界で可成評判がよい樣だ、山本藏相もまだ仕事を始めぬから批評にはならないが隨分苦心して居る事だろうと思ふ、東京市の外債問題かね、ソウサ困ったものだ、何しろ關税改正の影響だらうが今年は殊に輸入超過も巨額だし在外資金の塡補も急務だし不景氣も激しい迂闊に過すわけには無論行かぬけれども騷いだとて仕方もあるまい、金利騰貴につれて公債の下落も一苦勞だ、内地は内地サ日鮮經濟關係が密接だと云ふけれどもそれは見樣一つだ、此地から内地に送るものは米や大豆等の必要品が多いから内地の不景氣は左迄影響もあるまいが此地が不景氣だと大坂あたりの製造品が早速影響を蒙るだらうよ、經濟關係は從屬的でないから内地の不景氣なぞ氣にせずに大に活動するサ、ナニ朝鮮の通貨膨脹かそれは鐵道港灣等の敷設や恩賜公債などの結果已むを得ぬけれども膨脹した通貨は之を貯蓄するか生產資金の方に運轉すれば事業も起り富源も開發されるのだが土地賣つた金で寢て暮されては困る濫費ではうれこう通貨膨脹の弊害恐るべきものがある此邊は互に警醒しなければならぬ、今年は米は豐作だし明年の政府事業も巨額だから景氣も次第に素晴しくなるだらうが此際大に民心を緊張しなければならぬウム朝鮮の勸業銀行かそれは東拓に債券發行の權もあるのだが薩張振はんねこれには意見もあるけれども君には云はぬ色々打ちあげたが私の談とするなら氣をつけて書いて呉れ給へ云々（一記者）

●五部聯合會の分離 京城五部聯合會は創立當時より元京城府民會館の跡にて事務を執り來れるが何れは東部は既に地所家屋を探定し總督府の認可を經近々分離する豫定なるが他の四部も早晩地所家屋の決定次第夫れ〳〵分離すべしとの事なり

●中學校生徒數 總督府中學校の生徒は現今三百三十五名にて三學年迄あり而して昨今の定員は四百名なるも校舍落成の曉は更に定員を增加する筈勿論或は同校内に設置しある教員養成所の生數も增加するにいたるやも知れずといふ次に民團立高等女學校の生徒は三百三十三名にして内仁川より通學するもの二百名夫れ以外の附近地方より通學するもの二十名なりといふ

●京釜京義線改修工事 京釜、京義線の改修工事左の如し

▲土城汗浦間（十九哩六分）土城鷄井間（九哩二分）は先月を以て總て竣功し鷄井金郊間ナ約九分九厘通り金郊汗浦間は約九分五厘通り竣工し列車運轉區間十四哩餘に至れり

▲東林良策間（十九哩六分） 些少の殘工事を除くの外竣工し全區間列車の運轉を爲すに至れり

▲漢江橋梁基礎 新線工事は目下原動力機械据付及第一號橋脚締切工事施工中にして未だ進捗步通りを計上するに至らず

▲鴨綠江架橋工事 は八分三厘通りは成工せり橋梁前後の步道工事は九分九厘通りを假擁壁工事は約九分三厘通りの成工にして軌條敷設は本月工事に着手約四分一厘通り竣工せり（新義州停車場工事を除く）

●觀測所の新設 從來朝鮮東海岸には釜山元山の兩測候所ありしも中間の沿岸百四十里間には未だ何等の設備なく調査上甚だ完全を缺きしが今春和田觀測所長の實地踏査の結果遂に江原道江陵に測候所を新設することゝなり竹下技手目下出張準備中にあれは來月一日頃其開始を見るに至るへし尚は觀測所にては慶尚北道慶州郡の依賴に依り同地にも氣象器機を貸付し已に簡易觀測を開始したる由なり

●警備電話規則發布 二十六日の官報に總督府令第百四號を以て警備電話に關する規則を發布されたるが全文四箇條よりなり來る十月一日より之を施行せらる

●興信所支所設置申請 東京帝國興信所支所を今回當地に設置せんとし同所長後藤武雄氏來京二十五日右設置方に付て總督府へ認可申請したり

●瓢屋の大宴會 寺内總督は廿二日午後六時元田拓殖局總裁以下二十餘名を東京築地待合瓢屋に招待し晩餐會を催し總督は兒玉小松兩局長外波武官秋山參事官及び新橋の美妓數十名を從へ杯盤の間を周旋し終始歡待に勉めたり

●不正會社解散嚴命 朝鮮牛皮合名會社は牛皮牛骨及蹄油を官買するを目的とし昨年八月韓國政府時代に認許を受け其後會社令第十八條に依り設置を認められ相當に事業を經營し來れるも近來全羅南北道及忠淸南道に支店を設置すると稱して其支配人希望者數名より不正の金を徴收したること發覺し去る二十二日解散を命ぜられたり

●小作料金納感想 江原道春川郡は從來小作料は實物納付にて運搬の費用を要するのみならず其殘量にては到底一年を支ふるに堪へず糴ひ高價の糶米を購入せざるべからざるに至り處今回金納に改定せられたるを以て上記の煩累と困難を免かれ至極便利なりとし小作人の感想頗好なりと

●宇佐美長官視察 宇佐美内務部長官は二十七日より約二週間の豫定にて新庄通譯官澤村屬を隨へ慶尙南北道忠淸北道の道府郡行政事務視察のため出張す

●内務部長官事務處理 宇佐美内務部長官管内視察の爲め出張に付不在中の事務は小原地方局長代つて處理すべし

●柳參與官の出張 京畿道參與官柳赫魯氏は二十七日より向ふ九日間管内九郡の視察を爲す由

●水道事務狀況 自五月至八月四ヶ月間の京城水道事務狀況を聞くに作業件數三千五百二十一件にして給水栓の增加四百〇二栓、配水量二千五百八萬五千六百十六立方呎、石炭消費高七百二十八噸、八月中の水道使用人員六萬二千五百人なり而して同期の收入調定額總計は四萬八千五百八十五圓にして其收[illegible]

●技術官の出張 [illegible]會にては同會施[illegible]請中なりしが來[illegible]局より養鶏技術[illegible]出張する由

●東拓の鮮人内[illegible]にては今春催ふ[illegible]を記念せんが爲[illegible]感想梗概歸郷後[illegible]を印刷に附し觀[illegible]志に頒布したる[illegible]費の都合上又々[illegible]どの意嚮ありと

●元山の實業補[illegible]立普通學校に實[illegible]月二十五日付を[illegible]られたり

●府郡書記の赴[illegible]授與されたる新[illegible]十六日市内各種[illegible]より京城ホテル[illegible]茶菓の饗應（[illegible]二十七日より二[illegible]て出發すへし

●釜山府内の[illegible]は客年八月來釜[illegible]器械廿臺を[illegible]斯業の發展を[illegible]三名に達し現に[illegible]民有志者を招待[illegible]書授與式を擧[illegible]

●故尹雄烈男略歴 故男爵尹雄烈[illegible]科に登り爾來[illegible]を經て宮中の[illegible]治十四年）の[illegible]公使花房義質[illegible]り後公使館附[illegible]を迎ひ下部暨[illegible]を養成し舊來[illegible]教練を行はし[illegible]禍亂の際に起[illegible]を訪ひ謀め事[illegible]しめ同時に機[illegible]め日本に赴き[illegible]一大隊の軍物[illegible]督に配布して[illegible]一明治十六年[illegible]せられ程經て[illegible]部大臣）とし[illegible]て漢城に歸[illegible]はれて全羅[illegible]幸酸を嘗め[illegible]る其の後丙[illegible]將軍部協辯[illegible]

▼京城手形交換高 [illegible]

治外法權▼ [illegible]

公人私人 [illegible]



新町廓內 口入屋の卅分（五）
白面子

白面子曰く此れを彌次的前科者に聽くと「入る時より出る時が恐ろしい」と僕も丸屋の上り口へ腰を掛けて居た間は頗る落着いて居られたが一旦其家を出ると何だか背後が見られる如だ、ビク〳〵者で新町一丁目の方へ行き掛けると天地に響く大音揚げて白面子を呼び止めるものがある、素破こそ一期の浮沈此の時なりと覺悟を極めて振り返ると見知り越しの某樓の某妓なり、此れならば安心、間違つた所で三圓五十錢を擲げ出せば關所を通らんこと容易なり錢を斷らるゝ氣遣ひなある可らずと思へば度胸も自づと据る「何うだい」と空惚ける「貴君てう何うなすつて口入屋なんぞへ」と云ふ「實は此頃浪人してるので奉公口を賴みに來たのサ」と哀れつぽい調子でホイゼイ悄然て見せるが此の妓には既に成る事で一遍妙な手が掛けてあるので乘らない「噓、〳〵」と一言の下に嘲んで吐出される「れ

氣の毒ね口入屋の女將

さん乾度貴君に騙されて好い氣になつたんでしようね、可哀相に、貴君は女郎衆より罪が深いよ、碌な死樣はしませんよ」と睨む「モット睨め其樣睨みなら一睨み二錢位出すぜ、處で如何だい手の筋は觀るかね」「手の筋でも足の筋でも」「臀の毛でも鼻の毛でもか」「好かつてね」と益々華やかに打笑ふ「處で彼所の女將さんは元高島屋の仲居さんだつてなア」と一寸懸けて試る「エ、主人は植田仙平と云つて……年ですか……サア」と首を傾げて「三十か一位ですよ女將さんの名はもり子さんと云つて二十七だろうですがね何うして海千山千……れ前の樣だつて……可愛相に」とニコリして「東京の吉原では河內家、靜岡では寶來樓なぞで叩き上げて九州では竹雄伊萬里の遊廓で鳴して夫れから對州竹敷の遊廓で稼ぎ中現の主人と睦しい交情になつて手を取つて

京城に來て同郷人と云ふ處から皆春樓の主人の世話で高島屋に男は帳場に女は仲居さんに住み込んで夫婦共稼ぎと云ふ理想通りの苦勞もした、其辛棒に果が實つて今ではア、して水入らずに睦しく今日を送つて居るんですつて……エ、羨ましう御座いますとも、妾も急に情人が一人欲しくなつたワ、とは云へ豈夫貴郎ではねエ」と聲を放つて笑つたが急に氣を變へて「チト遊びに」と愛嬌よく「丸屋の次は別庄ですか」と圖星を指す「シーツ聲が高い」時に四時二十五分。

嗚呼、堀力太郎
▽亡父の面に泥を塗る

▲努力と天運　彼れ久太郎は某氏に貸與されて麥粉一袋を以て麵麭を燒き出入船舶に出賣を試みたるに幸に思ひしよりは多くの利潤を得たるに愈々力を得たる彼は旺盛なる其精力を傾注して健鬪したる功空しからず數年の後には多額の貯蓄さへ出來たりければ仁川港の將來を有望なりと洞見し土地抵當の貸金、土地の買占等を試みたるが天運彼れが上にありて着々として利潤を得ること多かりし明治二十七年疾く嘯せられし

▲日清の平和　は豐島沖の砲聲に破れ仁川は日本兵の上陸基點となり物貨の需用は頓に增加し來れり機を見るに敏なる彼れは人を地方に派して牛を買占め兵站部に牛肉の納入をなして一擧莫大の利益を得以て海運業に從事するには至りしなり

▲久太郎の死亡　流石に僅々の歲月の間に巨萬の富を贏ち獲る程の亡父久太郎は長男力太郎の到底一家を支配すべき才能を有せざるを知り亡母まつとも相談の上久太郎の實弟彌吉又は元吉の兩人の內に相續せしむべく決定し居たるに不幸にも兩人共久太郎に先立ちて夭折し久太郎も又二十九年十月死亡したるより玆に止むなく力太郎が家督相續する事となり弟直藏及び貞良は分家しちさと、やす、むめの三女は他家に婚嫁したり

▲母子の不和　力太郎は亡父の死に依りて家督を相續したるも猶實權は依然として亡母まつの掌中に在りしが爾三年を經てまつは更めて財產の大半を力太郎に讓渡すと同時に隱て不和なる力太郎の家をば去りて三女ちさと其愛嬢なる佐藤敬雄との兩人を從へて別居したり此れ三十三年中の事なり而して其後も獨立の事業を經營し居たるが明治三十八年九月死去したりされば

▲まつの遺產　は隱居持分として外五人の兄弟姉妹に對し相當分與の方法を確定すべき筈なるに力太郎は自己一人の利益の爲め親族會議の決議録を作製し亡母まつの遺產は十ヶ年間力太郎に於て支配管理すべし但利益は無配當なりと獨斷專行したり而して

▲此の連名中　には當然ちさと名儀を記入すべき筈なるに力太郎は如何に考へけんちさと敬雄との間に出生したる久雄（當時三才）の名儀を掲げたり（此れ今回の原告なり）而して翌年一月十五日力太郎は自宅に於て新年宴會を開きたる席上にて近親及知人等の助勢を求め敬雄に對し殆んど强制的に前記

▲決議録を承認　捺印せしめたり當時敬雄は其の不當の處置に憤慨する所ありしも義母まつの死亡後日尚淺

新講談豫告
（揭載）

引續き永々御愛讀の榮を賜はりし本紙所載の小說「召使れ初」も愈々近日大團圓を告げ申候に就ては之れに代る讀物何彼と詮議の結果東都講談界の巨匠小金井蘆洲の口演に係る俠豪

「梁川庄八正國」

の傳を揭載することに致し候同人の豪勇俠氣は眼中王侯貴人なく義に因つては孝子節婦の爲めに氣を吐くこと千丈長夜燈下の讀物として二なきものと存じ候へば相變らず御愛讀下さる可願上候

新講談豫告
（揭載）

きに面白からぬ議論を戰はすは好ましからずとて耐忍したるが當時同じく遺產の配分を受くべき權利者の一人堀直藏は斷乎として其不法を詰り捺印を拒みたりき（つゞく）

●荷馬車少女を轢く
△子を持つ親は注意

仁川海岸町齋藤正治郎養女まさゑ（三）は二十五日午後五時自宅前道路にて遊戲中折から疾驅し來りたる荷馬車の音響に驚き仰向に打倒れ居たる處該馬車の車輪に轢かれ前額部に長さ一寸五分深さ骨膜に達する重傷を負ひ直ちに佐藤病院にて應急治療を加へたるが生命には差支なきも全治一ヶ月餘を要すべしと加害者は濱町三丁目運送業小松勝次方雇人徐仲實（一八）と云ふ者にて本署に引かれ嚴重說諭を加へられて放還されたり子を持つ親は返す〳〵も注意肝要

●未練男の刃物騷

山口縣人當時旭町二丁目十番戸佐伯五右衛門と云ふは在鄕軍人にして勳七等の刑罰を有する人なるが曾て朝鮮總督府巡査志願にて夫婦連れ渡鮮せしが未だ採用にならざる以前實の姪と私通し本妻しづ子を虐待し離緣せしより身元調べの結果不採用となりし事は既報の如くなるが其の後しづ子は獨立して旭町一丁目に於て去る人の世話にて菓子小賣に從事し佐伯等は一應歸國し再び渡鮮せし由にて二十五日夜佐伯はしづ子の許に行き元々通り同棲す可く談判せしに應せぬとて刄物携帶脅迫せしとて南部署に保護願出に付不心得を諭し放還したりと

●仁川秋季清潔施行

仁川に於ける秋季大清潔法施行は左記日取なり

（十月二日）萬石町、松阪町、花房町、支那町、仲町一丁目、海岸町、萬石町、新町、水場（三日）山手町、本町、仲町二、三丁目（四日）新町、濱町、京町、宮町一丁目、沓洞、內洞、外洞、龍洞、山根町、龍岡町（五日）宮町、寺町、柳町、新昌洞、花町、敷島町、花開洞、獨脚洞（六日）花林洞、平洞、松林洞、松峴洞、牛洞、金谷洞、栗木洞、花島

●龍山の鮮人竊盜

新龍山大島町十四番戸新炭商趙明俊（三九）方へ廿六日午前二時頃鮮人風体の賊三名忍入り內二人にて趙明俊が臥し居たる溫突內に立至り呼び起して合計金十九圓六十二錢外雜品を强奪して逃走したり龍山警察署にては目下犯人嚴探中なりと云

●橫領は執行猶豫

三重縣多氣郡相可村東池上當時龍山祝町四十九番戸機械大工職竹內太三郎（三八）は龍山製紙株式會社機械大工として雇はれ中詐欺橫領竊盜犯として其筋に檢擧され檢事局に送られ京城地方裁判所公判に付せられ塚原裁判長の係り長尾檢事立會の下に公判開廷せられ審理の結果詐欺竊盜は無罪となり橫領犯のみ有罪となり判檢事の同情と辯護士石塚嘉式氏の熱誠なる辯護とに因り懲役六月にて二ヶ年間刑の執行猶豫を與へらる

●コソ泥捕る

京城西部仁建坊南井洞六十二統二十二戸鄭基錫（三二）は去る七月中旬明治町一丁目樺藤一郎方不在に乘じ眼鏡一個銀側懷中時計一個を竊取したる外猶は數ヶ所に於て金品を竊取したる事南部署刑事に探知され目下取調中

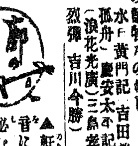
●出火

二十五日午後十時四十分中部磚洞十一統十戸盧尙絢の宅より出火し同家の温突二十三間を燒失したり原因は煙草の吸殼より出火せしと云ふ

●演藝だより

▲壽座　新派劇壇の驍將後藤良助を補助として鶴岡光次郎、松下斎太郎、深津三郎、藤野秀夫、女優島田北子等花形俳優四十餘名の一行は二十六日夜同座へ乘込み二十七日初日を出す筈なり初日の藝題は『黃菊白菊』全八場一切眞劇『しのび草』三場なり猶初日は木戸無料にして二日目より日正五時迄の入場者二百名を限り木戸無料とし開場は花火を打揚げて合圖すべし開演時間は正五時なりと特に此度は特等を廢し一、二、三、四等に分つて精々安價に觀覽せらるゝ樣なしたりと云ふ

▲浪花館　吉川今勝一行二十七日夜の讀物左の如し
水戸黃門記（吉田勝丸）義士傳（吉川孤舟）慶安太平記（廣澤樂園）貞女鑑（浪花光廣）三島孝太郎、紀尾井阪爆烈彈（吉川今勝）



▲軒に訪る風の聲雨の音にも秋の哀れは身に泌む心地して樂しみ鍋のジワつく音も懷しく聞きなさるゝ候となりて花柳界は大分に景氣附きたる樣なり慶すべきか慶す可らざるか吞れ之れを知らず▲松葉、清華、花月の絃聲艶話の絶えざるに反して井門、擲翠等はトント振はず樓主連は妙な呼吸をつく〳〵算盤玉を彈き居り候▲什麼生か箇中の佛法▲說破、賣らざるが故に賣れざるなり喝▲白水、高田家、初音、合道樂、鍋道樂等も又盛んに御座候▲花月の小高は近來某大官殿の乘馬姿を見て『意氣だワ、意氣だワ』▲同樓のぼたんは評判程でもないテンボウ藝妓▲井門樓の蝶々は養母の爲めに今の身の上夫れを哀れとも思はぬ養母の計畫か親戚の金持の……からとて未だにゴタ〳〵り秋は哀れな話を聞の鶴吉は生れは茨城橫濱で鍛ね上げた氣手と云ふ此れで流行理だ▲擲翠の右女助きり人氣を擱と當地きし釜山に仕替を取……鳴らず閉口の体なり……して此から先き氣を……は有る雅の中クョ〳〵……研究せざアなるめ、したと云ふが果して左樣か此りやーつ（廓雀）

げよ▲松葉亭の時松は此の頃盛んに精出して本町四丁目のさ光化門近所の老爺さんを兩手に花、但し洋氣は甚日の出來心、ウーキツ▲同樓の照羽は泥峴街の或る骨董屋さんと堅い金物屋さんとをチヤンポンに『何方も出ごたゑがあつて乙だワよ』▲清華亭の鶴羽は後の方とも彼の方とも奇麗羅張切れず



壽座に出演する後藤良助